

地域密着型サービス自己評価票

- 。 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 。 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成19年 7月 26日
事業所名	グループホーム円頓寺
事業所番号	70400976
記入者名	職名 管理者 氏名 玉木信子
連絡先電話番号	052 - 583 - 7515

(様式 1)

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んでいること も含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でそ の人らしく暮らし続けるこ とを支えていくサービスとして、事業所独 自の理念をつくりあげている	商店街に立地しているという特色を生かして、毎 日、散歩へ出かけ町の人と馴染みとなっている。 洋服屋で 服を見たり、犬と戯れたり、1 階の喫茶 店で “ モーニング ” を楽しんだりしている。		
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングなどで 個別のケア、その方の望むこ となどを話しあっている。何か自信を失った時に は理念を思い出して ” 道しるべ ” にする様、各職 員、自分自身の成長の糧としている。		
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で 暮らし続 けることを大切にしたい理念を、家族や地域 の人々に理解してもらえよう取り組んで いる	ご家族にはもちろん地域のイベントなどで 伝える ようにしている。そして機会ある都度、地区の民 生委員の方、喫茶店、洋服店、理髪店などの方達 と話している。		
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえ るような日常的なつきあいができるように 努めている	日常的に散歩や買い物に出かけ近隣の人と挨拶を 交わしている。専門学校の学生さん、商店街で 出 会うご高齢の方などに声を掛け、ホームに寄って 頂いている。		
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活動 に参加し、地元の人々と交流することに努 めている	地域のお祭り、保育園、小学校の運動会、学芸会 などの行事に、積極的に参加している。そして、 商店街のごみ拾い、祭りの時のイベントの店番な どを引き受けて、楽しんでいる、		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき たい内容 (すで に取組んでいること も含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は研修を受けながら認知症ケアの啓発に努めている。随時、話しが有る時に、相談事を聞いている。そして、地域への恩返しという意味を含めて、今後、地区の会合の席などで 地域の高齢者、あるいはご家族の悩み事、相談事を受けて行こうと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえ改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。より一歩、前進するためにどうしたら良いかを、考えている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見サービスをサービス向上に活かしている	利用者が地域で活躍できる場を運営推進会議で提案していただいている。そして、利用者がよりいきいきと暮らせるように、実行している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所に出向き話をする機会を設けている。どんな些細な事でも、相談してアドバイスを受ける様にしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対応が必要な利用者に対して他の職員も支援できる体制が整っている。実際、必要に迫られた利用者にどういうものを説明して権利擁護事業を、理解して頂いた。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関して学ぶように努めている。有り得ない事だが、生身の人間であるので、心を常に律するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアに対する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者や家族の不安、疑問点を誠実に対応することで 安心して頂いている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者にミーティングに参加して意見を述べていただいたり、言葉や態度からその思いを察するようにして、利用者本位の運営を心がけている。どこにいても「今、話しても良い？」と利用者が来ると、その話を、じっくりと聞く様にしている。		
14	○ 家族等への報告 事業所で の利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時にケース記録を読んで 頂いたり、金銭管理ノートに目を通して頂いている。利用者の暮らしぶりは、家族が安心出来る様に、伝えている。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にはなんでも言ってもらえる様な雰囲気を作ることに努めている。意見、不満、苦情などは今出来ることから、早めに解決するように努めている。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者は職員の要望や、意見を聞き、取り入れる様、努めている。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよ う、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしをでき る限り支えられるよう、必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。外食、日帰りバス旅行等、職員の人数を確保するために、普段からチームワークを心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すで に取組んでいること も含む)
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、馴染みの職員に依るケアを、心掛けています。いままで に、職員の変動が殆ど無いということ で 利用者も比較的、落ち着いた日々を、送っている。		
5.人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で 開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。運営者は、管理者、職員が少しでも多くの学びが出来る様に、配慮している。		
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会があり、その中で 交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。出来る限りの参加を伝えるが、限られた人数のスタッフで有るので、全員参加という訳にはいかず、その日の勤務に合わせての参加になってしまうので、なるべく多くの職員の参加を考慮している。		
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	話を、いつでも聞く姿勢を整えていて、困ったことなどを、公私共に聞いてくれる。		
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	なかなか見聞き出来ない現場の事を、公正、客観的に判断して、やさしく見守り、的確に意見を述べて次の一歩へと進めてくれる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すで に取組んでいること も含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまで に本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で 生活を把握するよう努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようとしている。いつでも話せる雰囲気をかもし出すようにしている。	
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまで に家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの経緯をゆっくり聞き、次ぎの段階の相談につなげている。出来る限り穏やかに対応して安心して頂く。	
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては区の介護福祉課などを案内している。本人と家族が今、何を望んでいるかを、親身になりじっくりと聞く。	
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上で サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ず、すぐ入居となった場合はご家族やそれまでかわった方にきていただき安心していただく。それまでの生活習慣を大きく変える事無く、過ごして頂く。	
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有して利用者に教えてもらう場面が多い。相談、悩み事、こんな事が有った等、お互いに話し合っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき たい内容 (すで に取組んでいること も含む)
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気ずきの共有に努めている。家族からここの生活では知りえない事を聞いたりすると、新たな思いがする。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまで の本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態をこまめに伝えて、来訪時はご本人とご家族の潤滑油になるよう努めている。時にはお茶とお菓子を共に食べながら、他愛も無い話をして、時を過ごしている。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで 大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来訪時、部屋でゆっくりしていた いたり時には外食していただいてる。家族とデパート、法要等へも行かれる。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり相談に乗ったり利用者同士の関係が上手くいくように支援している。相手を非難している利用者の言い分を、じつくりと聞きマイナスの思考がなるべく残らない様、配慮している。又、傷つけられたであろ う利用者にはフォローを忘れない様にしている。		
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移られた方の所へ利用者と一緒に訪ねたりしている。転居された方の思い、それまでの馴染みの関係を大事にしたいと考えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (す で に取組んでいること も含む)
あ １．一人ひとりの把握			
33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で 声を掛け把握に努めている。" その方の思いシート " に依り、いままで 分からなかった気持ちが分かり、感動し、ケアプランに取り入れている。	
34	○ これまで の暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでの サービス利用の経過等の把握に努めている	自身の語りや家族、知人等の訪問時など少しずつ把握に努めている。全てという訳で は無いが、可能な限り馴染みの暮らしを継続して頂く様にしている。	
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活、心理面の視点や出来ないことより出来ることに注目しその人全体の把握に努めている。利用者の朝、昼、晩の状態を観て、いつもと何か違うという職員の勘を大切にしている。	
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○ チームでつく る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように本人や家族の要望を聞き、事業所以外の関係者の意見を含めて課題となる事をスタッフ全員で 話し介護計画の作成に活かしている。	○ ケア会議の内容等をきちんと、書面に残していないので、今後は、誰が見ても把握出来る様に、個別のファイルにまとめていきたい。
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できな い変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族やご本人の要望を取り入れ、期間が終了する前に見直し状態が変化した時には検討見直しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の暮らしの様子や本人の言葉などを記録し職員間の情報共有を徹底している。どんな些細な事でも、話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者への柔軟な支援、空き部屋が有る時は近隣の高齢者の状況に応じてショートステイを受け入れる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安心して地域での暮らしを送れるよう、警察や民生委員と話し合っている。地域運営推進会議の方達と会議以外でも話せる機会が多いので、いろいろな情報を頂いている。		
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	まだ、そこまでには至っていない。今後、他のケアマネジャーやサービス事業者と接点を持って行きたい。	○	地域の他のケアマネジャー、サービス事業所と、今後、連携を図りたい。
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ、そこまでには至っていない。今後、地域包括支援センターとの協働を検討している。	○	西区の地域包括支援センターと、今後は密に話し合い、出来る限り、” 運営推進会議 ” に参加して欲しい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。また受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応してる		
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在は認知症専門医が身近に居ないが、今後、必ず専門医に安心して利用者の方を診て頂く様に探す方向である。	○	利用者が安心して、認知症に関する診断や治療を受けられる様に、専門医を今年度中に探すつもりである。
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護職員と看護師とは気軽に相談できる関係ができています。今後、ミーティングなどで、専門職として職員に知識を伝える場面を、今まで以上に多くしていきたい。		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを防ぐために医師と話しをする機会を持ち、なるべく早く退院できるようにしている。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所が対応できるケアについて説明をおこなっている。現段階では、かかりつけ医とそこまで話し合い、全員で方針を共有するまでには至っていない。今後の課題である。		
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつ、安心して納得した最期を迎えられるように意思を確認しながら取り組んでいる。かかりつけ医とチームとしての支援までには至っていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき たい内容 (す で に取組んでいること も含む)
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で 十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいで も、これまでの暮らしが損なわれないように情報提供し、連携を心掛けている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	意識向上を図るとともに誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底をはかっている。何気無く言った言葉が利用者の耳に入り、妙な誤解が生じない様に、今後も職員で 気をつけていかなければならない課題である。		
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で 決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員で 決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で 決める場面を作っている。		
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。職員はその日のスケジュールを殆ど決めておらず、逆に、朝、職員の顔を見ると利用者がその日のスケジュールを伝えてくる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	あさの着替えは基本的に本人の意向で 決めており又、理美容院で 希望にあわせたカットをしてもらえるように連携を取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
54	○ 食事を楽しむことのでき る支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は利用者と相談しながら決めるようにしている。調理、盛り付け、片付けなども共に行っている。唯一の男性入居者も、食器洗い、共用部分の掃除など、引き受けて頂いている。		
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、それらを楽しめるように支援している。たばこについては職員が預かり本人の希望にそって、換気の良い場所で 吸えるよう配慮している。		
56	○ 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりのサインを職員が把握し、さりげなく誘導して支援している。		
57	○ 入浴を楽しむことができ る支援 曜日や時間帯を職員の都合で 決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む方には言葉掛け、対応の工夫などをして支援している。汗をかいたり、排泄物で 下が汚れた場合などには、適時、シャワーを浴びて頂いている。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。夜間、寝ぼけたり、眠れない等の訴えがあった時は、当然の事ではある が、暖かい飲み物などを差し上げ、落ち着くまで、話を聞いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で 一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそう な仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につなげており、小額を手元にもっていただいている。個人的な買い物、喫茶店等での飲食、祭りなどで自分の財布からお金を支払っている。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物に出かけ近隣の人と挨拶を交わしている。デパート、" のりたけの森 "、大型スーパーマーケット等、その日の朝に希望があれば、出かける。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「故郷に帰ってみたい」「温泉に行ってみよう」などの思いが出されたときは実現するための方策を職員で検討し支援につなげている。昨年であるが、飛行機で、会長が利用者と一緒に長崎まで" 墓参り "へ出かけた。		
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう に支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや手紙を書いた方と共に郵便局へ行きポストへ投函するなどの支援をしている。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来やすい雰囲気作りを心掛けている。ゆっくりと、談笑できる様に見守っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束に関する知識を伝え、共有認識をはかっている。今現在は有り得ない事であるが、知識として必要な事なので、今後、" 勉強会 " の時間をとって学んでいく予定である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき たい内容 (すで に取組んでいること も含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を徹底し外出しそうな時は止めるのではなくさりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアーにいる職員が見守り、夜間はすぐに対応できるように居場所を工夫している。エレベーターを使用しての移動のため、職員の手薄の時などには、動きを確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くような事はなく状況変化に応じて注意を促している。包丁等は夜間のみ、利用者の目に届かない場所に移動し、薬などは今の所、勝手に服薬してしまう利用者が居ないものの、今後、注意を促していかなければならない点である。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒リスクマネジメント表を職員で調査し事故を未然に防ぐための工夫をしている。誤嚥に関しても看護師の指導の下、ミーティング時、話し合っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し周知徹底をはかっている。どれだけ知識があっても、その場になったら慌ててしまうだろうし、ましてグループホームは一人の時もあるので、心細いと思うが、知識としてあった方が良いと思う。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現段階では地域の人達の協力を得られるという確証は無いが、学区に消防団があって、その福会長に災害時に協力要請する予定である。	○	学区の消防団、商店街の人達に、日頃から交流をして絆を作っていく事を、今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき た い内容 (す で に取組んでいること も含む)
72	○ リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出によりリスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし行動障害を少なくしていることをご家族に見てもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、変化が観られた時はバイタルチェックをして変化時の記録をつけている。状況により医療受診につなげている。		
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員が把握できるよう にファイルしており服薬時はきちんと服用できた か確認している。		
75	○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩、家事活動など身体を動かす機会を設けて自然排便できるよう取り組んでいる。おやつに、さつま芋をふかしたり、ヨーグルト、牛乳等、摂って頂いている。		
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し歯磨きの声掛けをしている。口腔内の汚れは、肺炎を引き起こす事もあるし、"8020運動" に貢献して表彰状を受けた利用者もいるので、声掛け支援して、個別のチェック欄に記入している。		
77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の栄養バランス、カロリー計算までには至っていない。水分量もだいたい1日1200～1300ml摂取する様にと、伝えてあるだけなので 今後は記録として残したい。	○	9月1日から栄養バランス、カロリー量を知るために、1週間分の献立のその日の朝、昼、晩のカロリーを計算することに決定した。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき たい内容 (すで に取組んでいること も含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関して情報収集を行い早期発見に努めている。又、利用者およびご家族に同意いただき職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所水回りの清潔、衛生を保つように取り決めて実行している。その日、使用した布巾などは、必ず洗濯して、食中毒の季節には生ものを出来る限り避けるようにしている。新鮮な食材の購入に気を配っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように、プランターを置いたりしている。建物の構造上、玄関口が大変狭く目立たないが、来訪者、利用者の出入り時、安全である様に、配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂いなどの生活感を自然に取り入れている。居間の窓が東向きのため夏場は朝から日が入り、大変暑いので、カーテンなどで日をコントロールして、快適さを保っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースでは有るが、小さなソファを置きそれぞれが、くつろげるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき たい内容 (すで に取組んでいること も含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	好みや馴染みの物を置き、居心地の良さに配慮 している。筆笥の上に利用者の若い時の写真、マッ サージ機、ラジカセ、テレビ等を置いて楽しんで いる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居間は一定の時間に換気しており、冷暖房は外気 との温度差に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだ け自立した生活が 送れるように工夫している	手すり、トイレ、廊下など居住環境が適している か見直し安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」を追求し 状況に合わせて環境整備に努めている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるよう に活かしている	ベランダで 花を植えたり洗濯物を干したり、冬に は日なたぼっこ、夏は夕涼みと楽しんでいる		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で 囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で 囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

商店街の人達(スーパーマーケット、理髪店、喫茶店、甘味どころ、ラーメン屋、洋服店、クリーニング店等)と、ごく自然に交流を持ちそこで立ち話をしたりして、外の情報もいれてもらえるので、利用者の方にとっても素晴らしいことだと思う。今後も、地域との交流を、このまま継続できるように支援していきたい。